

第68回日本医学検査学会の開催にあたり



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
代表理事会長 宮島 喜文

本学会が、一般社団法人山口県臨床検査技師会の担当で、メインテーマを「維新 Innovation」、サブテーマを「確かな知性と技術の躍進」と掲げ、盛会に開催されますことをお慶び申し上げます。

また、会員の皆様には、日頃から一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技と略す。）の活動につきましてご理解、ご協力を賜りこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、私たち臨床検査技師を取り巻く環境は大きく変革しております。会長就任時に掲げた「日臨技を再生し、未来を拓く」のスローガンの下、第66回学会（千葉県）では、「Vision－夢・創造－臨床検査の更なる進化と多様性を求めて」をメインテーマに、昨今の新しい検査技術や検査業務の在り方、業務拡大の可能性など各分野において目指すべき臨床検査の Vision を語り合う場として、第67回学会（静岡県）ではメインテーマを「Let's go this way－その道を進もう－」とし、従来の検査業務体制からの変革が強く求められ、専門性を生かして「患者に正面から向き合った業務」の参画に向け考える場として企画運営されました。

2018年12月1日に「医療法等の一部を改正する法律」が施行され、医療に提供する検査値の精度を確保することにより、国民医療の向上に寄与することが求められております。「がんゲノム医療提供体制」の整備が進む中、臨床検査技師の担う役割も大きく変革を遂げています。また、「医療のタスク・シェアリング」に伴いプロフェッショナルリズムを守りながら臨床検査技師としての検査説明やデータ分析そして様々な医療現場での活躍方法が模索されています。本学会のテーマでもある「確かな知性と技術の躍進」について会員の一人一人が改めて熟考する機会となることを期待しております。

末筆ではありますが、本学会に参加された会員にとって有意義な学術集会であることを祈念するとともに、本学会の企画、運営にご尽力いただきました洪田秀美学会長を始め、一般社団法人山口県臨床検査技師会の皆様に厚くお礼申し上げます。